

令和2年度 豊玉高校

郷土探究報告書

◎目次

- ・1学年!・・・ 1～24ページ
- ・2学年♪・・・25～42ページ
- ・3学年★・・・43～60ページ



2. 2学年♪

対馬の魅力である真珠について

私が2年生で行ったことは真珠を使ったアクセサリー作りです。そこから学んだことは、対馬の真珠養殖は盛んに行われており、その作業はすごく難しいということです。



比田勝にある Tsushima Pearl の方に真珠を使ったアクセサリー作りを教えてくださいました。ブレスレットやストラップなどを作り、私はその中でネックレス作りに挑戦しました。細かい作業が多く不器用な私にとってとても大変な作業でした。しかし、Tsushima Pearl の方の手助けもあり、上手に作る事ができました。アクセサリーにあまり興味のない私でも、ネックレス作りはとても楽しく、それが出来上がった時は達成感を感じる事ができました。



1、2年生の活動を終えると、総合発表会の準備をしました。上手くいかないこともあり苦戦しましたが、班のみんなと協力して発表が成功するように頑張りました。発表会では、緊張して上手に話すことができませんでした。みんなの前で話すのが難しいと改めて感じる事ができました。



3年生では何を行うかまだ分かりませんが、1、2年生で学んだことを少しでも活かせばいいなと思います。そして、私にとって来年度は学生で行う最後の郷土学習になるので、今まで学んできたことや、来年度学ぶことを大人になっても忘れないようにしっかりと勉強したいと思います。



対馬の林業について学んだこと

私は2年生のときに林業班として木材について理解を深めました。理解を深めるために行ったことは実際に見学に行ったり、物づくりをしたりしたことです。

最初に峰町三根のk i i r oさんに見学に行かせていただき、ギャラリー見学やスプーンづくりを行いました。ギャラリー見学では、イノシシの皮で作られている小物や、メープルやヒノキの木を使った机やイス、タンスなどを見たり触れたりしました。手作業で作ったとは思えないほど丁寧に作られていました。スプーンづくりでは、細かい作業で手先が不器用な私は集中力がとても必要でした。少し気がぬけたときに指を切ってしまいましたが、傷も浅かったので大丈夫でした。今となっては、それもいい経験になったと思います。



次に日高林業さんに行き、森林を身近に感じるために実際に森の中に入り、木を切るところを見学しました。20m近くある木を切るところを生でみることができました。

切って倒れるときの音と地響きが大きすぎて迫力を感じました。



2年次は、対馬の森林を身近に感じることができる活動ばかりで、木材や森林について多くのことを知ることができよかったです。また、その活動をまとめた小論文づくりに取り組みました。

自分たちの活動を言葉2000文字近くにしてまとめることはとても難しく、大変でした。班で取り組んでいましたが、自分たちでうまくまとめることができなかつたので先生に手助けしてもらいながらしていましたが、頼りすぎていたのが反省点です。

1・2年生の2年間で林業のことについて学ぶことができよかったです。対馬は森林が多くありますが、それを生かした仕事やイベントなどが少ないので、少しでもが林業について興味を持つ人が増えてほしいです。

3年次では何を行うかわかりませんが、1・2年次で学んだたくさんのことを思いだしながら頑張っていきたいです。

対馬を支える農業について

私達2年生は1年生の総探の授業も含め、対馬市の第1次産業について調べ学習をしました。

1年生の授業では、農業、林業、水産業についてのフィールドワークを行いました。農業では、アスパラガスの収穫に行きました。実際にアスパラガスの成長過程を教えてくださいたり収穫を行ったりしました。農家さんは、「真夏のハウスはとても暑くて作業するのがとても大変」だとおっしゃっていました。実際ハウスの中に入った時にとっても暑くて熱中症などに気を付けないといけないので、こんな中で働き続けている農家さんは凄いと思いました。

2年生の活動内容は、農業班、林業班、漁業班、真珠班の4つの班に分かれて、それぞれ学習を行ってきました。

まず、2年生の生徒全員に、「嫌いな野菜」をテーマとしたアンケート調査を実施し、その結果からトマトが嫌いな人が多いことが分かりました。理由を聞いてみると、トマトの味や触感が嫌いということが分かりました。「どうしても苦手な人にトマトを食べてもらえるか？」「味や触感に何か工夫は出来ないのか？」を班員と考えました。



そこでスーパーに行って生産者を調べ、峰町の吉田にあるトマト農家の「中村農園」を訪れ、トマトの栽培過程を教えてください、実際に収穫体験を行わせていただきました。



これからの総探では、アンケートの結果をもとに、野菜をメインに使った、ドライカレーとポテトサラダを作ろうと考えています。どうしても苦手な人にトマトを食べてもらえるか、味に工夫をして作りたと思います。

林業班で学んだこと

2年次の活動は1年次の持ち上がりで農業班、林業班、漁業班、真珠班の4つの班の中から選びます。私は林業班を選択しました。

活動では、林業のことを深く学ぶため、kiiroさんと日高林業さんに見学に行きました。

kiiroさんは、木材で作った家具や小物を作っている所です。実際に私たちは、スプーン作りを体験させてもらいました。説明を聞くだけだと、簡単な工程だと思いましたが、実際にやってみると集中力が必要な作業でした。私は不器用なためスプーンの形を整えるのが難しく上手くできませんでした。それに比べて阿比留さんは綺麗に仕上げるのはもちろんそれを効率よく何本も作っていました。

ついでに、ギャラリーに行って家具や小物を見せてもらいました。これらを手作業で作っているのが凄い技術だと思いました。



次に、日高林業さんにも行きました。

そこではどの木が伐採対象や木の年数の数えかた、木の一本の値段や伐採した木の行き先など教えてもらいました。実際に木を倒す所を見させてもらいました。木が倒れると、地響きが起き、とても驚きました。

切るときに木を狙った方向に倒すのは技術と経験が必要なのだと感じました。私は林業の仕事がどんな事をするのか最初は、イメージがわかりませんが実地研修をしてその仕事内容が分かり、林業の一部の仕事を知れたと思いました。



2年間の活動を通して感じたことは、林業の最初のイメージは、あまりよく思っていない、どちらかと言えばキツく、危ない仕事ばかりだと思っていました。しかし講話や実地研修を通して危ない仕事には間違いないのかもしれないがそれを軽減するために、機械の導入などをして、今までに比べて、より安全に、また効率よくしているのだと思いました。

現在の林業は外国産の木の輸入が多く、また国産の木よりも外国産の木の方が安いので、国産の木が売れてない状態が続いています。

しかし林業は無くなってはいけない職業だと思いました。そこで、林業の職業に就かなくても林業について興味をもってくれる人が増えるだけで、今よりもっと林業が盛んに行われる事につながると私は思いました。

2年次の活動まとめ 「林業班」

2年生で行ったことは、家具製作所キイロと日高林業を訪問したことです。

7月8日に、家具製作所キイロの阿比留恭二さんの所に、実地研修へ行ってきました。

僕たちは、スプーン作りを体験しました。その時は、暑くて大変でしたが、とても楽しくて集中して、上手に作ることが出来ました。

2回目は、日高林業さんの所へ行かせてもらいました。対馬の木は20年経つと間引きし、35年～40年経つと伐採する。そして、伐採したところにまた新しい苗を植え、繰り返すことで対馬の自然を守っていることを知りました。

実際に、木を切っているところもを見せてもらいました。木が倒れた時に、物凄い地響きがして、驚きで声がでませんでした。

私たちの住む対馬は、ほとんどが森林に覆われているので森林に携わる仕事が多く、木を作る林業の仕事はもちろん、それを加工して作るチップ作りや木炭作りをしています。

対馬のヒノキを使った家具や、家作りなども盛んに行われていますが、働くひとが減っています。この現状を知り、もっと林業について興味を持つ人が増えてほしいと思いました。

3年に向けて、自分は小物作りが得意なので、林業のことをもっと知り、進路にも役立てるといいなと思います。以上で、報告をおわります。



対馬のトマト

～桃太郎～

私が二年次に行ったことは、峰町吉田にある中村農園の方々に協力していただき、トマトの桃太郎という品種のトマトを、収穫をさせていただいたことです。桃太郎は、大玉のピンク系で、樹上完熟させて出荷されるため流通段階で傷まない硬い特長があります。私は、トマトは何度か育てた経験がありましたが、農家さんの説明から、今まで知らないこともたくさん聞け、良い経験をさせていただきました。



農家の仕事は、夏は暑く、冬は寒いというとても過酷な仕事だと言っていました。しかし、野菜を食べてくれた地域の人や、たくさんの人からの声のおかげでやりがいを感じているそうです。



対馬の農業の現状を調べてみて、年々農家数や、産出額が減少していることが分かりました。私は、長崎県の離島の壱岐、五島、対馬の現状を比べてみました。総土地面積は対馬が一番大きいのに、耕地面積が一番小さいです。それにより、農業産出額の値が低くなります。また、対馬で農業をしている人の年齢を調べたところ、半分以上が50代から80代の人でした。



対馬は、人口も減ってきて、少子高齢化が進んできているため、農業をする人はこれからも減少していくと思います。もっと、対馬の自然よいところを引き出して、対馬の農業が途絶えないようにしたいし、これからも対馬の農業を支えていきたいと思いました。



農業は人を幸せにする仕事だと実感しました。

対馬の魚

一年次に決めた対馬の魚をテーマに、二年次は、いろいろな活動を行いました。初めに、魚についてのアンケートをとりました。どんなことを聞か、どんな質問の仕方にするのかなど、初めてすることが多く、大変でした。内容は、魚と肉だとどちらを週にどのくらい食べるかというもので、結果は予想と違い、魚を好んで食べる人は少ないことがわかりました。



アンケート結果より、あご・鯛・くろ鯛・カワハギ・イサキの5種類の魚を使ったハンバーグを作りました。どの魚も味にあまり変わりはなく、魚の風味が強かったので、食べにくく、まだ試行が必要だなと感じました。

そして、小論文コンクールに、小論文を出すことになり、放課後や授業の時間を使い、班員で意見を出し合いながら作り上げました。

対馬の現状から、今後の活動まで指定された文字数に考えをまとめるのも、とても大変でしたが、小論文を作ったことで、発表会までの流れを、班員全員で確認することができて、とてもよかったです。



また、私たちは漁師さんの船で海に行き、漁の体験をさせてもらうことができました。その時に定置網漁についてもおしえていただき、体験することもできました。

発表会では、私たちが行った活動や考えた事を知ってもらえたと思います。



初めは、魚や漁師さんに偏見をもっていました。対馬で漁業を仕事にされている方や、対馬の魚について知ることができ、価値観や、偏見が変わりました。対馬は水産業が盛んですが、魚を自分から好んで食べる人は少ないので、そのような人にもっと水産業についての興味を抱いてほしいと思いました。

嫌いな野菜を使ってやりたいこと

僕は、農業班で主に野菜について調べました。実地研修では、1年次に佐保の方にアスパラガスの収穫に行き、2年次は、吉田の方にトマトの収穫に行かせていただきました。

アスパラガスの収穫体験をしたり、アスパラガスについてのお話を聞かせていただいたりしました。アスパラガスはビニールハウスで三月から一年をかけて育ててそれを繰り返して育てます。夏は暑いビニールハウスの中で草ぬきや水やりをしなくてはならないと聞いてとても大変なのだと感じました。

実際にアスパラガスの収穫に行かせてもらったときは真夏のとても暑い日だったのでとても大変でした。

対馬でのアスパラガスを育てるうえでの課題は高温による品質の低下を抑えること病気や害虫から野菜をまもることです。対策としては二重被覆と防除の徹底と省力化です。二重被覆とは、ハウスの中にビニールを張って温度を高めることで、生育を促進し、早期収穫を可能とする技術のことです。対馬でのアスパラガスを育てるのは大変だと無理をせず頑張っしてほしいと思いました。

2年次に、私たちはクラスメイトや先生などを含む21名に嫌いな野菜は何かアンケートを行い最も票が多かったトマトの収穫に行き、トマトについても調べ学習を行いました。



トマトについて調べていくと分かったことがありました。例えば、トマトはビタミンAになるβ-カロテンをやや多く含んでおり、これは、抗発ガン作用や免疫賦活作用で知られていますが、その他にも髪健康維持や、視力維持、粘膜や皮膚の健康維持、そして、喉や肺など呼吸器系統を守る働きがありとても体にいいことがわかりました。



私たちは嫌いな野菜のアンケートの結果をもとに野菜をメインとしたドライカレーを作ろうと考えております。



嫌いな野菜だけでなく栄養素や色合いなどをよく考えて料理に挑戦したいと思います。また、農家の人の苦勞を知るために、自分流で家庭菜園にも挑戦してみたいと思います。アスパラなどは難しいと思うのでまずは、ミニトマトやリーフレタスなどから挑戦してみたいと思います。家庭菜園で少しでも自給自足や栄養について考えていけるよう頑張りたいと思います。

漁業班『俺』視点の愉快的活動録

郷土探究で私が所属する事になったのは、対馬の三大産業の一つである『漁業』について調査する、漁業班だった。

まず、初めに講師を招いて漁業について聞いた。それから我々は、この学習の核となる目標の決定や、目標達成への目星を付け話し合った...と言っても、一方的な決定で話にもならなかったが、一応目標は決定した。

我々漁業班の目標は、魚が苦手な人々に魚を美味しく食してもらおう事だ。

そこでアンケート調査を実施したところ、魚を好んで食する者が少ないことが解った...

そこでだ。「美味しく食せる魚料理を我々で作ろうじゃないか。」となったのだ。

まず、我々は対馬の穴子をつかった料理を作ろうとしたのだが... 予算の都合で却下、そこで鰯を使った料理に変更、皆で釣りをする計画を立てたり、他班からアドバイスをもらったりしながら散々話し合った。中には釣りの代わりに金魚を飼おうと言い出す者が出たり、予定した人物が来なかったりなどアクシデントも起きたが何とか専門の方を招いた料理会を実施できた。色々と変更が有り、様々な魚を使った魚肉ハンバーグを作った。



ちなみに我等が糸瀬先生は、ずっと餡かけが良いと駄々を捏ねていた。

肝心の味はというと、不味くはないが、凄く

美味しいと言うほどの物でもなく微妙なものだった。一番の問題は、魚肉ハンバーグに入っては絶対にならない小骨である。人によっては苦手な魚介類特有の生臭さという問題もあるが、一番は骨、そして商品としては買う損の味である。そして、その問題を後回しにした我々は、定置網漁の見学に出向いた。



私は船酔いでグロッキー状態だったが、魚を網で捕獲などは体験させてもらった。しかし、養殖と出荷は体調不良であまり見学できなかった。



そのあと学校に戻り、漁師さんから貰った魚で料理を作って食したらしいが、私は早退したので残念ながら味わえなかったのだが、良い体験をさせてもらったので漁師さんには感謝しなければならない。そして我々は今まで体験してきた事を全校生徒の前で発表することができた。

最後に、色々あったが楽しい企画であった事は間違いない。漁業班の仲間達、先生方、協力してくださった皆様に感謝を申し上げたい。

「ありがとさん。」

トマトの収穫体験について

私が2年次で行ったことは、トマト収穫を体験したことです。峰にある中村農園さんに協力をいただいて、トマトの収穫やトマトの品種と育て方などを教えていただきました



トマト収穫ではトマトの匂いがきつくて嫌だったけど少しずつ慣れてくると収穫するのが楽しかったです。でも、ミニトマトを食べてみたけどやっぱり柔い感じや酸っぱい感じがとても苦手でした。



総探の時間にトマトについて調べてみると、トマトには沢山の栄養があり、風邪予防、がん予防、高血圧予防、心筋梗塞予防など、たくさんの病気を予防する効果があることが分かり

ました。調べてみて、いつも嫌いで食べなかったトマトにたくさんの病気を予防する効果があって少しビックリしました。これからは、少しでもトマトを食べられるようになりたいと思いました。



この体験をして、私たちが普段から食べている野菜などは農業の方たちが毎日汗を流しながら懸命に育ててくれていることを感じました。

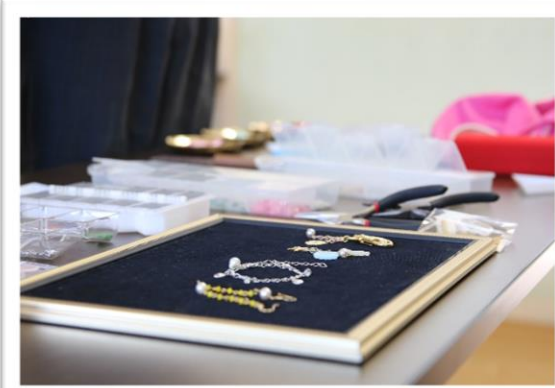
対馬で野菜を作ってくれている人は高齢者の方が多くて若い人は少ないけど私達にできることは感謝して食べることだと思うので、できるだけ嫌いな野菜を残したりしないようにしていきたいと思いました。



対馬の真珠の魅力

1年生の時に、実際に真珠養殖の見学をしに行きました。話を聞くだけでは分からなかった真珠の作業工程を、実際に見ることで真珠についての、理解や関心が高まりました。

対馬の真珠の魅力について学んだ私たちは、2年生での活動で実際に私たちだけのオリジナルパールアクセサリーを作ることにしました。



そこで私たちは、対馬の比田勝で真珠アクセサリーを作って販売している Tsushima pearl の方々に協力していただきました。私は、プレスレットを作りました。自分たちで好きな色や真珠を選んで、楽しく活動することが出来ました。アクセサリーを作るという細かな作業が苦手で、上手に作ることが出来るか不安でしたが、完成することが出来ました



1年生から2年生にかけて真珠養殖の学習を通して、印象に残ったことは挿核という作業です。挿核という作業は、核とピースと一緒に貝に挿入していく作業です。繊細で難しい作業を手作業で行っていることを、知ることが出来て良かったです。凄く印象に残りましたし、挿核の作業が早いことも印象に残っています。真珠に触れることで真珠の魅力にも沢山気づきました。対馬には、真珠以外にも自然豊かなところなど、沢山の魅力があります。私たちのように真珠の魅力、対馬の魅力を知る人が多く増えてくれれば良いなと思います。



今回体験して学んだこと

2年生で行ったことは魚についてアンケートを取ったこと、魚を調理したこと、定置網漁を体験したことです。特に、魚をさばいたことや漁に行ったことは初めてでした。



学んだことは、魚のさばき方や漁の仕方を学びました。魚のさばき方では、手順を初めて知りました。早田さんは慣れた手つきで素早くきれいにさばいていてすごいと思いました。とても難しかった部分があり、苦労しました。作ったものは魚のハンバーグで小骨があったり、味があまりしなかったりして改善点がありました。改善すれば商品にできると思いました。将来役に立つかもしれないのでとても良い体験をしたと思います。



漁では、どのように魚を追い込んで、捕まえることができるのかがよく分かりました。網にうまく細工されていてすごいと感じました。多くの魚が網にとれていて、すごかったです。売れる時期ではない魚は別の場所に生かしておいてとれた魚を何匹かエサにしていました。エサやり体験もできてとても楽しかったです。あまり揺れてない日でよかったと思います。



最後に、対馬は水産業が盛んだというイメージがあるのに対し、アンケートの結果では魚が好きという人が1人だけで、9割の人が魚を食べるのが週に2回以下という結果でびっくりしました。魚をさばくことは将来あると思いますが、漁に行くということはないと思うので今回体験したことはとても貴重なことだと思いました。今後学んだことを活用するということはあまりないと思いますが、いざ活用できる場面があれば活用したいと思います。この授業を通してあまり知らなかった魚について少し知れ、対馬の現状についても知れたので良かったです。将来対馬で働くと思うので対馬の現状を知ったうえで働きたいです。



林業を学んでみて

2年次の活動は、自分たちで選択した班に分かれてそれぞれの班で調べ学習を主にしました。僕は、林業班でした。

林業班では、実地研修で kiiro さんと、日高林業さんの所へ行きました。

まず、最初に kiiro さんの所へ行きました。kiiro さんでは、本当に手作業なのか疑ってしまうほどの作品がたくさん飾ってありました。そして自分たちも実際にスプーン作りをしました。説明を聞いているときはほかに飾ってあるものと比べて簡単に作れると思いましたが、実際に作ってみると説明したようにいかず、難しい作業でうまく作ることができませんでした。

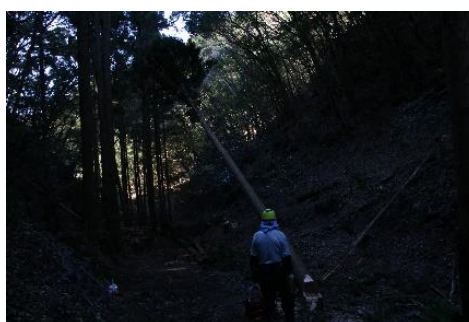
作ってみて感じたことは、スプーン作りだけでこんなに難しいのに家具を作るのはどんなに大変な仕事なのだろうと思いました。でも作りきった時の達成感とお客さんの所へ届いた時のやりがいも大きいらしいなと思いました。



次に日高林業さんに行きました。

日高林業さんでは実際に木を倒す所を見せてもらったり、木を売りに出す大きさにカットする所を見せてもらったりしました。木が倒れた時は地響きが起きて驚きました。

林業はとても大変な仕事だと思うけど、kiiro さんと同じでやりがいをとても感じる仕事なのだろうなとも思いました。



実地研修が終わると、総合発表会に向けて2年間のまとめをしました。まとめの作業では、まとめをすることが苦手なのと、1年次の活動をあまり覚えていないことでとても苦戦しましたが班で力を合わせてなんとか発表会までに終わることができました。

2年間林業について調べ学習を行ってみて思ったことは、林業にもたくさんの方が働いている人と分かりました。もっと詳しく知りたいなという事も出てきたので、また3年生でも調べていきたいと思いました。

オリジナルパールアクセサリーを作ってみて

私が2年生で行ったことは、オリジナルパールアクセサリーを作ったことです。比田勝にある対馬直営店（Tsushima Pearl）の方々に協力していただき、自分だけのオリジナルパールアクセサリーを作りました。



私は、3つの真珠が並んだネックレスを作りました。家に持って帰って家族に見せたところ好評でした。



細かい作業が多く、たまに力もいるので大変でしたが Tsushima Pearl のの方々に助けをいただきながら、完成させることができました。完成した後の達成感がとてもあったので、機会があればまた作ってみたいです。今回は、ネックレスを作ったので次作るときは、違うアクセサリーにも挑戦したいと思います。



真珠について学んでの感想は、対馬の真珠は生産量が多いということに驚きました。また、対馬の真珠は巻きと照りが他の真珠に比べていいという対馬特有のことも知ることが出来ました。実際に対馬の真珠を使ってアクセサリーを作ってみると、真珠がきらきら輝いてとても可愛かったです。

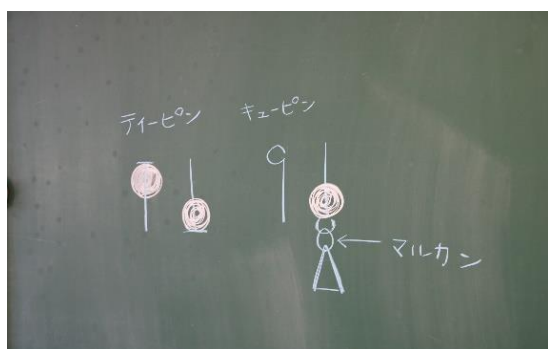


真珠について学習したおかげで対馬の真珠を身近に感じる事が出来ました。ですが、生産が盛んであるのに周りの人はあまり知らない所以对馬の真珠の凄さをたくさんの人に知ってほしいと思いました。学習を深めるほどに真珠の魅力に気づいて、真珠について学ぶことが出来てよかったと思います。

対馬の真珠について

一年生の時の活動は、美津島町濃部の真珠養殖の見学に行きました。真珠が作られる工程を教えていただき、実際に核入れ作業などを見ました。細かい作業が多く、手先が器用な人でないとできそうにない仕事でした。そして、細かい作業でも遅くならず、丁寧に素早く作業していたのすごいなと思いました。

二年生の時の活動は、Tsushima Pearlの方々に来ていただき、自分が作りたい真珠アクセサリーのイラストをもとに材料を準備していただきました。自分たちで材料やネックレス、ストラップの長さや大きさを考えて、作り方を教わりながら自分だけのパールアクセサリーを作りました。作ってみて、マルカンという小さなパーツをたくさんつなげるのがとても大変でした。アクセサリー作りは細かい作業が多く大変で集中力がある作業でしたが完成した時は達成感があり、とてもうれしかったです。



対馬の真珠について調べて分かったことは、対馬の真珠はてりが良いことと、真珠のまきがいいことです。対馬の海は海水の温度が低く栄養分が少ないので普通よりもゆっくりじっくりと育てられます。そのおかげで、真珠の層が何層にも重なることができ、まきがとても厚くなります。また冬の時期海水の温度がぐんと下がることで真珠の層が丁寧に巻かれるため表面のきめが細くなり、光沢が素晴らしい真珠が出来上がります。そのため、真珠アクセサリーは外国の観光客からの人気も高いそうです。

一、二年生の活動を通して感じたことは、実際にパールアクセサリーを作ってみて、Tsushima Pearlの方々は細かい作業を素早くしていてすごいなと思いました。対馬の真珠養殖について学習してきて学習を深めていけばいくほど真珠の魅力にたくさん気づきました。真珠養殖について調べてよかったし、もっとたくさんの人に真珠の魅力を知ってもらいたいです。3年生ではまだ何をやるかわからないけど、班の人と協力していい学習ができるようにしたいです。



対馬のおさかな

私が2年生の郷土探究の時間に行ったことは、アンケートをとること、調理すること、論文を作ったこと、定置網漁に行ったことです。

アンケートは2年生16名と2年生所属の先生方4名の計20名に魚とお肉ではどちらのほうが好きで、魚は週に何回の頻度で食べるかという内容でした。その結果、圧倒的にお肉のほうが人気で魚を食べるのは週に2回以下ということが分かりました。そこで、魚もお肉のように好まれて食べられるようにするために、老若男女人気の肉料理のハンバーグを魚で作ってみようと考えました。



調理は、対馬で獲れたアゴ、鯛、黒鯛、カワハギ、イサキの5種類の魚たちをさばき方から教えていただき、実際に自分たちでさばいてみて、その魚を使ってハンバーグを作りました。さばき方が魚によっては、少し違って特殊なものもあって難しかったけど、ハンバーグはお肉のハンバーグと同じ作り方で簡単にできました。



そして、この2つの活動を通して対馬の漁業に関する論文を作成し、12月上旬、豊玉町で漁師をしている方の船に乗り、実際に漁に行っ
て定置網漁の水揚げ体験をさせていただきました。



これらの活動をしてきて、私は漁に行ったことが一番印象に残っていて、定置網漁の一連の流れを学ぶことができました。また、ハンバーグを魚で作ることができたので、身近な食生活に魚をもっと取り入れられるし、ヘルシーだと思うのでいろいろ考えてみたいと思います。

オリジナルパールアクセサリーを作ってみて

2年生では、1年生の時に学んだ真珠養殖の知識を踏まえて、対馬の真珠を使ったオリジナルパールアクセサリーを作りました。協力していただいたのは、比田勝にある対馬直営店 **Tsushima Pearl** の方々です。**Tsushima Pearl** の方々に学校へ来ていただいて、作り方を教えてもらいながらそれぞれ作りたいものを作っていました。



まずは、
材料選び！

事前に作りたいものを考えていたけど、どんな組み合わせにしたらいいのか悩みました。**Tsushima Pearl** の方にアドバイスをいただきながら無事選ぶことができました。

選び終わったら、次は作る作業に移ります。私はイヤリングの作り方を教えていただきました。（↓作業の一部がこちら◎）



細かい作業ばかりでとても苦戦しましたが、**Tsushima Pearl** の方々に手助けしていただきながら、何とか作りあげることができました。最終チェックをしていただき、完成したのがこちらです！



かわいく包装までしていただきました☺

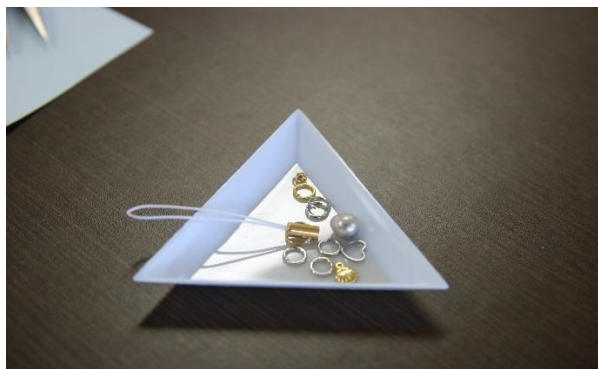
この活動を通して、真珠についての知識は以前よりも増えました。全国の真珠養殖生産量において、長崎県は全国2位でそのうちの半分以上が対馬の真珠養殖であるということを初めて知りました。これほど対馬の真珠が世に出回っているにもかかわらず、対馬の人たちはあまり真珠に興味を持っていないと思うので、もっと多くの人に知ってもらいたいです。そしていつか、対馬といえば真珠！となってほしいです。



対馬の真珠養殖について

一年生の活動は、美津島町濃部の真珠養殖場に見学に行きました。実際に見学してみると真珠養殖には採苗、稚貝育成、母貝育成、挿核、殊貝育成、浜揚げの作業があることがわかりました。その中でも見学した挿核という作業は核とピースを一緒に貝に挿入していく作業のことで、とても大変な作業だとわかりました。

二年生では、オリジナルパールアクセサリーを作りました。Tsushima Pearlの方々に協力していただいて、自分の好きなアクセサリーを作りました。アクセサリーを作る前には、プリントに自分が作りたいものを書いたりしました。アクセサリーを作る様々な形や色の材料と売り物にならない真珠を自分で選んで作りました。作業をしてみると細かい作業があっても大変でした。



対馬の真珠について分かったことは長崎県の真珠生産の割合の約半分以上を占めていることです。また、対馬がある長崎県の生産量が894キログラムで全国二位になっていることがわかりました。全国的に見ても対馬の真珠は四分の一を占めていることがわかりました。また、対馬の真珠の魅力は海の温度が少なく、栄養便が少ないということで、普通よりもじっくりと育てられます。じっくり育てられるおかげで、層が何層にも重なり巻きがとても厚くなります。冬の時期に海水の温度が下がることで層が丁寧に巻かれ、表面のきめが細くなって光沢が素晴らしい真珠ができることがわかりました。

対馬の真珠はほかの真珠と比べて、とてもきめが細かく、光沢が素晴らしく真珠が出来上がることは対馬の海ならではのことがわかりました。

自分が住んでいる場所が長崎県で見ても、全国的に見てもとても大きな役割を担っていると知って驚きました。また、真珠養殖について学んだことで、今まで以上に真珠について知ることができてよかったですと思います。三年生の活動でも頑張ってお勉強していきたいです。

